

本日は、Sr. Scholastica 小笠原玲の追悼ミサのために、このようにたくさんの皆様にお集まりいただき誠にありがとうございます。旧職員や卒業生、保護者の皆様、また学園がお世話になっている教育関係の皆様、一般企業の皆様、または、教会の中でシスターが生前親しくしておられた皆様にも足を運んでいただき、大変うれしく思います。また、7月に名古屋の本部修道院で行われた葬儀ミサにもご列席いただきました Sr. 小笠原のご親族の方々に、今日もご出席いただきましたことを心より感謝申し上げます。

ここで、少しだけお時間をいただき、Sr. Scholastica のご生涯を、皆様と共に振り返ってみたいと思います。

小笠原玲先生は、1936年（昭和11年）1月15日、小笠原家の末っ子として秋田県鹿角市にお生まれになりました。1歳～17歳まではお父さまのお仕事の関係で新潟県の佐渡で過ごされました。高校2年の2月に秋田の県立高校への転校を目の前にして体調を崩し、療養生活を余儀なくされ、1年間休学することになりました。そのため秋田の県立高校への転校ができなくなり、聖霊高校を紹介され、高校3年生に編入し、この聖霊学園を通して、キリスト教と出会いました。

高校卒業後は、開設されたばかりの聖霊短大の事務局に入り、3年間勤務しました。この時期に、教会の神父様のところに友人と一緒に通い、1957年の復活祭に、マリア・ミカエラという洗礼名で秋田聖霊修道院においてカトリックの洗礼を受けられました。

そして、1958年、特待生で聖霊短大の英語科に入学し、卒業後の1960年4月から英語の教師として、名古屋の聖霊中学校で教鞭をとることとなりました。これがスコラスチカ先生の教員生活のスタートでした。

さらに、学園を通して出会った聖霊会のシスターたちの生き方や呼びかけによって、聖霊修道会への入会を考えるようになり、1963年に聖霊会に入会しました。初誓願を宣立したあと、1968年から秋田の聖霊中学高校で英語の教師をしていましたが、1970年から73年までは、東京の聖心女子大学で外国語文学を学ばれました。その後も秋田の聖霊中高で教職につきましたが、1978年からの3年間はアメリカのジョージタウン大学の大学院の言語学科で学ばれ、1981年、再び秋田聖霊中高に復職しました。1983年からは副校長として、1986年には富永松雄先生の後を継ぎ、校長として14年間ご奉職なさいました。

この間、1988年には、学園の教育目標が、現在の「光の子としてあゆみなさい」に変わり、また、その翌年1989年には、現在の聖堂・講堂棟が完成し、その同じ年に、学園創立80周年記念式典が行われています。

また教育活動の分野では、1992年に高校に「国際コース」が開設し、その翌年には「特別進学コース」を開設するなど、現在も続いている高校のコース制の基盤づくりをしてくださいました。同時に、オーストラリアの Sacred Heart College と姉妹校協定を結ぶなど、国際的視野に開かれた教育を先取りし、宗教教育、女子教育と共に国際教育を聖霊教育の3本柱のひとつに据えられました。

2001年に教育現場から離れるまで、時代の変化に見事に対応しながら、学園の発展にご尽力してくださいました。

秋田を離れられてからは、聖霊会日本管区の管区長を9年間務め、その後、名古屋聖霊病院の理事長を務められました。79歳で学校、修道会、病院での大きなお役目を終えられ、東京の小金井修道院で8年間を過ごされましたが、昨年は半年ほど秋田修道院で私たちと共に生活するという貴重な時間を頂きました。

昨年の6月には、新潟教区が主催する佐渡の巡礼旅行にもご一緒いたしました。また、11月の「学園創立115周年記念行事」では、シスターの聖霊学園への熱い思いがこもったご講演を全校生徒、教職員と共に聞く機会も与えていただきました。これらすべてが、神様のご計画のひとつ、ひとつであったと感じます。

体調を崩されてから、名古屋の本部修道院へ転任なさいましたが、12月の検査の結果、肺がんの疑いが濃く、手術や抗がん剤治療は年齢的にも無理ということになり、痛み止めなどを服用しながら、修道院で最後の時間を祈りのうちに過ごされ、2024年7月3日の朝、静かに帰天なさいました。

皆様もご存じだと思いますが、シスターは大変な勤勉家であり、自分が果たすと決心したことは忠実にやり抜く方でした。学校や修道会、病院で重責を伴う大役を引き受け、大変忙しい中にも祈りを忘れず、神様からいただいたイニシアチブを取りながら、与えられた場所で宣教活動に邁進してこられました。

そんなシスタースコラスチカとの出会いを通して、このわたくし自身も聖霊学園に、また、聖霊修道会に導かれ、今、こうしてここに存在しています。私たち一人一人に対する神様のご計画は、私たち人間の願いや望みをはるかに高く超えたものであることを、シスタースコラスチカの生涯を通して感じずにはられません。

シスタースコラスチカ、あなたとの出会いを通して、神様が今、ここに呼び集めてくださっている私たち一人一人が頂いた恵みのすべてに感謝します。

わたしたちは、天のみ国でのシスターの永遠の安息をお祈りします。そして、これからもわたしたち一人一人のため、そして聖霊学園のためにも、神様にとりなしてください。

いつの日か、天の御国でのあなたとの再会を楽しみにしています。

本日は、追悼ミサにお集まりいただき本当にありがとうございました。

皆様とともにお祈りをささげることができたことを心から感謝しながら、聖霊学園を代表してわたくしのあいさつとさせていただきます。